

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地										
横浜システム工学院専門 門学校		平成9年8月11日	杉山 勝巳		〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881										
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地										
学校法人YSE学園		平成9年8月11日	杉山 勝巳		〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881										
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士									
工業	工業専門課程	情報デザイン科			平成27年 文部科学大臣告示第13号	-									
学科の目的															
CG、アニメーション、ゲーム、Web、DTP、映像などの制作に携わるデザイナーを育成するために、これらに求められる技術について、職業現場でのニーズをもとに検討したカリキュラムにより、現場で求められる技術要素を盛り込んだ講義、演習、実習などの教育を行い、職業実践的な人材を育成する。															
認定年月日															
平成26年3月31日															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技								
2年	昼間	2268時間	342時間	630時間	1296時間	0時間	0時間								
単位時間															
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数									
50人		17人	0人	2人	2人	4人									
学期制度	■1学期:4月5日～6月10日 ■2学期:6月11日～9月15日 ■3学期:9月16日～11月25日 ■4学期:11月26日～3月20日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 SABCDの5段階評価 評点(100点満点、60点未満不可) 出席状況・課題への取り組み・達成結果・試験の結果を総合的に判断する。										
長期休み	■学年始:4月1日～4月4日 ■夏季:8月1日～8月20日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月21日～3月31日			卒業・進級条件	卒業要件:2268単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題や近況報告をメールや電話でやりとりし、保護者と連携して、無理のない範囲でスクーリングさせながら様子を見る。授業とは別に特別メニューを個別に用意して指導する。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 YSEフェスタ実行委員会 ■サークル活動: 無										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) DTPデザイン、Webデザイン、CGデザイン(映像) ■就職指導内容 業界研究、応募書類作成指導、面接指導など ■卒業生数 7人 ■就職希望者数 7人 ■就職者数 4人 ■就職率 57% ■卒業者に占める就職者の割合 57% ■その他 ・進学者数: 0人 ・就職活動継続: 3人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 お台場セイルデザインコンテスト入選 横浜市会ポスターデザイン公募受賞 希望が丘商店会フェスティバルロゴ作成			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	色彩検定3級	③	9人	7人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数												
色彩検定3級	③	9人	7人												
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 5.9% 平成28年4月1日時点において、在学者17名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者16名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 健康上の理由により ■中退防止・中退者支援のための取組 学生が孤立しないように教員が積極的にコミュニケーションづくりを働きかけている。出席状況や授業態度や興味関心意欲などは平素から担任が把握し、科に関わる教員間(常勤・非常勤含めて)で情報交換している。おかしな様子が見られるときには早め早めに本人やクラスメイトに働きかける。それでも改善が見られないときには、保護者に連絡を取り家庭での指導との連携を心がけている。														

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ○IT女子特別奨学金制度:工業専門課程の女子学生に対して、2年間にわたり各学年ごとに特別奨学金60,000円を給付 ○特待生制度:1年次の学業成績、学修態度などを総合的に評価し、きわめて優秀な学生を特待生に認定し、下表のとおり特待生奨学金を給付 第1種特待生 年間 660,000円 第2種特待生 年間 330,000円 第3種特待生 年間 160,000円 第4種特待生 年間 80,000円 ○授業料減免制度:家庭の経済的事情(住民税非課税世帯)により就学が困難な学生で学業成績や課外活動などの面で学校長の推薦が受けられる者に対して、授業料を減免 第1種特待生 年間 330,000円 第2種特待生 年間 240,000円 ○学費延納制度:1年次後期以降の各期の学費納入について、学費納入額の半額を限度に3ヶ月間延納できる制度 ○奨学金活用学費特別納入制度:2年間の学費を在学中に毎月分割納入できる制度。日本学生支援機構の予約奨学生(月額80,000円以上)を申請予定、又は申請中、又は内定している者が利用可能 ○自宅外通学サポート制度:自宅からの通学が困難な者が、自宅外のアパート等を賃借し、そこから通学する場合に賃借代補助として毎月20,000円(年間240,000円)を給付 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) JAMOTE認証サービスにより平成28年12月 ISO29990適合認証</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>http://www.yse.ac.jp/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

- 1) 教育課程の編成に関すること
 - ① 企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。
- 2) 教育の実践に関すること
 - ① 企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。
 - ② 新鮮な実践的教材により、活かす育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。
 - ③ 企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。
 - ④ 経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。
 - ⑤ 企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。
 - ⑥ 企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。
 - ⑦ 楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。
 - ⑧ YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活きた作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①—⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会として協議する。学科で編纂した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただき、その内容を教育にフィードバックする。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しへの提案やアドバイスをいただき、次年度のカリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成29年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～平成29年3月31日	①
浜口 大樹	横浜市経済局中小企業振興部 横浜市工業技術支援センター デザイン支援 アートディレクター	平成26年9月1日～平成29年3月31日	①
石澤 勝	株式会社メディアライン 代表取締役社長	平成26年4月1日～平成29年3月31日	③
前園 悟	株式会社ヴェリー・ヴィジュアル・アソシエイツ 代表取締役社長	平成26年4月1日～平成29年3月31日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員
青木 聡	横浜システム工学院専門学校 第一教育指導室長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 ②学会や学術機関等の有識者
 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 (開催日時)
 第1回 平成28年6月29日 16:30～18:30
 第2回 平成28年9月26日 16:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 「キャリアデザイン」ポートフォリオの指導について、紙で提出するものと、データで提出するものとを両方用意して、企業によって使い分ける。履歴書についても手書き、デジタルデータ両方に対応できるようにすること。
 「ドローイング」基礎画力の向上訓練について、ゲーム会社の入社選抜ではデッサンを重視することが多い。美大の油絵科の学生の採用も多い。書き込みよりも線で形をとる練習に注力していく。
 産学連携授業について、プレゼンテーション技術の向上と、自主性、計画性を学ぶ機会にする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- 教育連携協定書の以下の項目
- ②新鮮な実践的教材により、活かす育てる実践的な教育を実施できるようにする。
 - ⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。
 - ⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。
 - ⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくりにしている。

1年次のキャリアデザインと2年次の卒業研究とは、企業の方の講演・実習・演習・指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマの掘り下げを行っている。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行った。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1年次のキャリアデザイン

自分のキャリアデザインを、実際に現場で仕事をしている方を指導員として仕事の全体像や、個々の仕事の説明を受け、課題制作を通して考える。キャリアをデザインする中で自分の専門学校での学びを位置づけて就業意識を高める。
実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

2年次の卒業研究

現在話題になっている技術や今後話題になる技術について、実際に現場で仕事をしている方を指導員として講演・実習・演習等の指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマを決めて掘り下げた。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
卒業研究a	映像制作における企画と絵コンテ制作	横浜市工業技術支援センター ユニパー株式会社
卒業研究b	映像制作における撮影とグラフィック制作と編集	横浜市工業技術支援センター ユニパー株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係																									
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員研修規則 第2条(研修の基本方針) 教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修・研究、並びに、専攻分野における授業及び学生に対する指導力を修得・向上するための研修・研究を目的として、企業等との連携のもと、組織的な研修の機会を設ける。 に基づき、研修に当たっては、職務の一環として参加している。</p>																									
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>1) The day of 3ds Max～3ds Max 2017新機能紹介とユーザ事例セッション～ 主催者: オートデスク株式会社 講師: 古島 隆史、池谷 章、川瀧 智晴 内容: 3ds Max 2017の最新情報と各業界でユーザセッション 受講者: 坂 貴紀 期間: 平成28年4月27日</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>1) 「アクティブラーニング研修」 外部講師: 蓋沼 義一(株)ピーコンラーニングサービス コンサルタント 内容: アクティブラーニング入門から応用まで 受講者: 坂貴紀、川又綾乃、佐藤伸造、他YSE専任教員 期間: 平成28年3月16日、18日</p>																									
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>1) First Contact - Zbrush体験講座 主催者: 株式会社ボンデジタル 内容: Zbrushを利用したスカルプティングモデリングの実習 受講者: 馬場 健一 期間: 平成29年10月26日</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>1) 「退学防止の極意」 主催者: 株式会社ヒューマンキャピタルコンサルティング 内容: 退学防止の極意 退学リスク診断×脳科学TCIメソッド 受講者: 馬場 健一 期間: 平成29年10月4日</p>																									
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係																									
<p>(1) 学校関係者評価の基本方針</p> <p>本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。 本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。</p>																									
<p>(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td> <td>・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</td> </tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td> <td>・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営</td> </tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td> <td>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対する</td> </tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td> <td>・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定</td> </tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td> <td>(5) 学生支援</td> </tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td> <td>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</td> </tr> <tr> <td>(7) 学生の受入れ募集</td> <td>・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書</td> </tr> <tr> <td>(8) 財務</td> <td>・財務について会計監査が適正に行われているか</td> </tr> <tr> <td>(9) 法令等の遵守</td> <td>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</td> </tr> <tr> <td>(10) 社会貢献・地域貢献</td> <td>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</td> </tr> <tr> <td>(11) 国際交流</td> <td>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</td> </tr> </tbody> </table> <p>※(10)及び(11)については任意記載。</p>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	(2) 学校運営	・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営	(3) 教育活動	・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対する	(4) 学修成果	・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定	(5) 学生支援	(5) 学生支援	(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書	(8) 財務	・財務について会計監査が適正に行われているか	(9) 法令等の遵守	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1) 教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか																								
(2) 学校運営	・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営																								
(3) 教育活動	・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対する																								
(4) 学修成果	・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定																								
(5) 学生支援	(5) 学生支援																								
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか																								
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書																								
(8) 財務	・財務について会計監査が適正に行われているか																								
(9) 法令等の遵守	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか																								
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか																								
(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか																								
<p>(3) 学校関係者評価結果の活用状況</p> <p>学校関係者評価では、理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などの学生・保護者等への周知が不十分との指摘があった。また、教育成果のアピールが不十分との指摘があった。これらについては、ホームページや広報紙、学生への配布資料などに記載し、周知・アピールを行っていく。 マネジメントシステムの確立について不十分との指摘があった。これに対しては、第三者評価に向けてマネジメントシステムの確立、およびPDCAサイクルを取り入れたマネジメントを実行していく。 卒業生の状況把握が不十分との指摘があった。次年度に向けての課題とし、卒業生アンケート・企業向け卒業生アンケートの実施準備を行う。 留学生について、母国との習慣やマナーの違いから起こるトラブルの対処をしっかりとほしいとの指摘があった。具体的な事例を挙げて学生に周知徹底する。</p>																									
<p>(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿</p> <p style="text-align: right;">平成29年9月1日現在</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中村 隆一</td> <td>秀英高等学校 校長</td> <td>平成25年10月1日～平成29年9月30日</td> <td>校長</td> </tr> <tr> <td>富樫 和弘</td> <td>神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会委員長</td> <td>平成25年10月1日～平成29年9月30日</td> <td>業界団体委員</td> </tr> <tr> <td>田村 孝章</td> <td>株式会社アド マネジャー</td> <td>平成25年10月1日～平成29年9月30日</td> <td>企業等委員</td> </tr> </tbody> </table>		名前	所属	任期	種別	中村 隆一	秀英高等学校 校長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	校長	富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会委員長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	業界団体委員	田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員								
名前	所属	任期	種別																						
中村 隆一	秀英高等学校 校長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	校長																						
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会委員長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	業界団体委員																						
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員																						

藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員
新井 一功	株式会社機能性表示プランニング 監査役	平成27年6月1日～平成29年5月31日	企業等委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員
金子 秀光	株式会社横浜電算 代表取締役社長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員
久保寺 美奈	卒業生	平成25年10月1日～平成29年9月30日	卒業生
森川 美穂	保護者	平成29年4月1日～平成31年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにしている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校案内 ごあいさつ、沿革、YSEの強み、交通アクセス、
(2) 各学科等の教育	・学科案内 情報システム科
(3) 教職員	・事業報告書(抜粋)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 就職サポート、大学編入サポート、就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(抜粋)
(6) 学生の生活支援	・入学案内 各種サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度
(8) 学校の財務	・財務計算に関する書類
(9) 学校評価	・自己点検評価報告書
(10) 国際連携の状況	・入学案内 留学生の受け入れ、留学生サポート制度
(11) その他	・学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.vse.ac.jp>

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科) 平成28年度

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
						講 義	演 習	実 験・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択											
○		情報リテラシーa	PC・オフィスソフトの基本操作 (Word、Excel、PowerPoint) DTP検定	1 ①	36		○		○		○		
○		情報リテラシーb	情報システム・Webシステムの活用 J検3級	1 ①	18		○		○		○		
○		パソコン概論	コンピュータシステムの概要 J検 (情報デザイン初級)	1 ②	36	○			○		○		
○		ビジネスマナー	社会人・ビジネスマンとしてのマナー、ビジネス文書	1 ④	18	○			○		○		
○		プレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作成、 プレゼンテーション実践練習	1 ③	18		○		○		○		
○		文章作法	わかりやすい文章の作り方	1 ②	18		○		○		○		
○		ドローイングa	モチーフを正確に捉えるデッサン	1 ①	36			○	○			○	
○		ドローイングb	身近なオブジェの遠近法デッサン	1 ②	36			○	○			○	
○		ドローイングc	屋外にあるモチーフの透視図法 デッサン	1 ③	36			○	○			○	
合計					科目	単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法

授業期間等

1学年の学期区分

期

1学期の授業期間

週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科) 平成28年度

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
						講 義	演 習	実 験・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択											
○		ドローイング d	様々な技法を組み合わせたオリジナル作品制作	1 ④	36			○	○			○	
○		カラーコー ディネーション a	PCGSに基づいた色彩理論	1 ①	36	○			○		○		
○		カラーコー ディネーション b	色彩理論を応用した作品制作、コンペ応募	1 ②	36	○			○		○		
○		DTPデザイ ンワーク	Indesignによるポスター・チラシ制作	1 ③	36			○	○		○		
○		デザインワ ーク基礎	Illustratorを使ってデザインワーク	1 ①	##			○	○		○		
○		デザインワ ーク応用	Photoshopを使ってデザインワーク	1 ②	##			○	○		○		
○		絵コンテ制作 a	絵コンテ作成	1 ①	36			○	○		○		
○		絵コンテ制作 b	各シーンの編集と効果	1 ②	36			○	○		○		
○		コンセプトア ンキング	デザインのリサーチ	1 ④	36	○			○		○		
合計			科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科) 平成28年度

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
						講 義	演 習	実 験・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択											
○		コンセプトメイキングb	リサーチをもとに企画立案、プレゼンテーション、ディスカッション	1 ④	36		○		○		○		
○		映像ビジュアルデザイン	After Effects、3DCGソフトを使用した映像のビジュアルデザイン	1 ④	72			○	○		○		
	○	キャラクターデザインa	頭身の低い簡単なキャラクターのデザイン(ツールは、アナログベース)	1 ②	36			○	○		○		
	○	キャラクターデザインb	人体や骨格の形、基礎を学びながら、オリジナル作品作り(デジタル、アナログ両方使用)	1 ③	36			○	○		○		
	○	キャラクターデザインc	人、動物、ロボット、様々なモチーフ作り(デジタル、アナログ両方使用)	1 ④	36			○	○		○		
	○	モーショングラフィックa	After Effectsによるモーショングラフィック制作	1 ③	36			○	○		○		
	○	モーショングラフィックb	After Effectsの3Dレイヤー、3Dトラッキング機能を使用した作品制作	1 ④	36			○	○		○		
	○	3DCG実習a	3DstudioMAX基本操作	1 ③	36			○	○		○		
	○	3DCG実習b	キャラクターのポリゴン制作	1 ④	36			○	○		○		
合計			科目			単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法

授業期間等

	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科) 平成28年度

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
						講義	演習	実験・実技	校内	校外	専任	兼任		
必修	選択必修	自由選択												
○		キャリアデザインa	1 ①	18		○			○		○			
○		キャリアデザインb	1 ②	18		○			○		○			
○		キャリアデザインc	1 ③	18		○			○		○			
○		キャリアデザインd	1 ④	18		○			○		○			
○		3DCG実習c	2 ①	36				○	○		○			
○		映像編集	2 ④	36				○	○		○			
○		効果編集	2 ③	36				○	○		○			
○		Webデザインワーク	2 ①	72				○	○			○		
○		Web構築運用	2 ②	72				○	○			○		
合計						科目							単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		Web運用保守	Webサイト運用	2 ③	72		○			○			○	
	○		SNS/モバイル	モバイルサイト構築・ 運用	2 ③	36		○			○			○	
	○		Web 運用 分 析・セキュリ ティ	アクセス解析、セキュリティ対策	2 ④	72		○			○			○	
○			CG アニメー ションワーク a	キーフレーム操作を応用した様々なモー ーション 表現	2 ①	72		○			○			○	
○			CG アニメー ションワーク b	AfterEffectsを使用したコンポジット技法	2 ②	72		○			○			○	
○			CG アニメー ション作品制 作 a	モーショングラフィック、3DCG、CG合成に よる作品制作	2 ①	##					○	○		○	
○			CG アニメー ション作品制 作 b	モーショングラフィック、3DCG、CG合成に よる作品制作。コンペ応募	2 ②	##					○	○		○	
○			コンペ作品制 作	CG/アニメ作品制作、コンペ応募	2 ③ ④	##					○	○		○	
○			卒業研究a	卒業研究テーマ検討、コンセプト設計、基 本設計、プロトタイプ制作	2 ⑤	36					○	○	○	○	○
合計				科目				単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科) 平成28年度

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
						講義	演習	実験・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択											
○		卒業研究b	卒業研究テーマに基づく作品制作、プロトタイプの見直し	2 ③	36			○	○	○	○	○	○
○		卒業研究c	卒業研究完成、発表資料作成、発表練習	2 ④	36			○	○	○	○	○	
○		キャリアデザインⅡa	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ①	18			○		○	○		
○		キャリアデザインⅡb	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ②	18			○		○	○		
○		キャリアデザインⅡc	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ③	18			○		○	○		
○		キャリアデザインⅡd	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ④	18			○		○	○		
		○ インターンシップ	職場実習 授業時数は、日報から算出する	2 通					○	○	○		
合計				52科目		2268単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：2268単位時間履修し、「卒業研究a」「卒業研究b」「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。	1 学年の学期区分	4期
	1 学期の授業期間	9週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。